

# レッスン・スタディを活用したペルーにおける

## 体育教員研修の成果と課題の検証

研究代表者	齊藤 一彦（健康スポーツ系コース）
研究分担者	木原成一郎（初等教育教員養成コース）
	草原 和博（社会系コース）
	岩田昌太郎（健康スポーツ系コース）
	吉田 成章（教育学系コース）
	船橋 篤彦（特別支援教育教員養成コース）
研究協力者	久我アレキサンデル（名古屋経済大学）
	山平 芳美（広島市立大学）
	白石 智也（広島文化学園大学）
	松本 佑介（教師教育デザイン学プログラム）
	藤島 廉（教師教育デザイン学プログラム）

### I 研究の背景と目的

#### 1. レッスン・スタディを活用したペルーにおける体育教員研修プログラム 構築の背景

2013 年 9 月、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会（以下「東京オリ・パラ」と略す）開催が決定されたことに伴い、日本は、東京オリ・パラ開催国として、体育やスポーツの価値を諸外国に届けることが期待されてきた（Sport for Tomorrow, Online）。こうした潮流の中で、日本の官民連携による国際貢献事業である「Sport for Tomorrow（以下「SFT」と略す）」が発足した。本共同研究プロジェクトの研究代表者は、上述の SFT 事業の 1 つである「ペルーにおける体育教師の能力開発支援（2016 年度-2020 年度）」事業のプロジェクト・リーダーを務め、研究分担者や研究協力者も、本事業のサブ・リーダーや外部協力者として事業へ貢献した。

さらに、文部科学省は日本型教育の海外展開を推進する国際教育協力の取り組みとして、2016 年度より、官民連携による「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）（以下「EDU-Port」と略す）」を展開している（EDU-Port, Online）。この EDU-Port 事業に対し、本共同研究プロジェクトの研究代表者、研究分担者、研究協力者らは、「日本型体育科教育の世界への展開－レッスン・スタディを活用したペルーの体育教員研修システムの構築－（2018-2019 年度 EDU-Port 公認プロジェクト）」に従事した。

上述の SFT 事業と EDU-Port 事業では体育科を軸に、日本の教育文化でもあり教員研修の形態でもあるレッスン・スタディをペルーに紹介・導入する活動が展開された。両事業の成果として、主に 2 点挙げられる。1 点目は、レッスン・スタディの運用が可能なペルーの体育科教育関係者（中央行政機関、地方行政機関、高等教育機関）のネットワークが構築されたことである。2 点目は、ペルーの体育科教育関係者によっ

て「体育教師養成・研修のための授業研究ガイドライン」が作成されたことである。

日本の官民連携による国際貢献事業である SFT 事業が東京オリ・パラの開催といった節目の年を迎え、これらの事業の成果や課題を整理する時期にあるといえよう。これら双方の事業には広島大学が中心的な役割を担ってきており、特にレッスン・スタディの導入に関しては、広島大学のノウハウが、広くペルーに普及しているといっても過言ではない（齊藤ほか，2020）。他方，COVID-19 の感染拡大により，研究の継続性について大きな課題が生じていることも否めない。この局面を乗り越え，研究の新たな展望を切り開くためにも，これまでの研究実績及びペルーにおける実践の展開を検証する必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

そこで，本プロジェクトでは，広島大学が中心となりこれまで実施してきたペルーの体育科教育関係者へのレッスン・スタディ紹介の意義と成果，さらに，事業後，ペルーにおいてどのように継続的な取り組みがなされているのかについて検証することを目的とした。

本プロジェクト研究の目的を達成するために，具体的に，以下2点の研究内容を設定した。

- (1) ペルーのリマで開催された第1回国際体育・授業研究学会（1<sup>st</sup> International Conference of Physical Education and Lesson Study）に続く第2回大会をペルーの体育科教育関係者と本プロジェクトチームとの協働体制でオンライン形式にて開催する。その上で，第2回大会の成果を総括するとともに，今後の国際体育・授業研究学会大会のあり方への示唆を得る。
- (2) レッスン・スタディを，ペルーの体育科教育関係者に紹介したことによる効果とその影響について明らかにする。具体的には，SFT 事業と EDU-Port 事業に参加していたペルーの体育科教育関係者を対象としたインタビュー調査（オンライン）を実施する。

（齊藤一彦\*・木原成一郎\*・草原和博\*・岩田昌太郎\*・吉田成章\*・船橋篤彦\*）

## II 実施内容

### 1. 第2回国際体育・授業研究学会（2<sup>nd</sup> International Conference of Physical Education and Lesson Study）

2021年9月25日（土）に第2回国際体育・授業研究学会（2<sup>nd</sup> International Conference of Physical Education and Lesson Study）を，ペルーの体育科教育専門家及び本プロジェクトチームと協働で，オンラインで開催した。これは，2019年8月26日（月）・27日（火），ペルーのリマで開催された第1回国際体育・授業研究学会に続く大会といった位置づけである。第2回大会のプログラムは表1の通りである。

第2回国際体育・授業研究学会はオンライン（Zoom）形式で開催され，ペルーと日本の体育科教育関係者や授業研究関係者約60名の参加者が集まった。

表1 第2回国際体育・授業研究学会プログラム

ペルー時間 2021/9/24	日本時間 2021/9/25	テーマ	発表者
司会：久我アレキサンデル（名古屋経済大学） 白石智也（広島文化学園大学）			
17:00-17:10	7:00-7:10	開会の挨拶	齊藤一彦(広島大学)
【第1部：シンポジウム＜体育授業研究＞】			
17:10-17:30	7:10-7:30	アレキパ州の体育のための革新的な戦略としての授業研究	Prof. Betsy MIRANDA FRISANCHO (教育省体育局 体育教育専門官) Prof. Alicia PARQUI QUISPE (アレキパ州小学校体育教師)
17:30-17:50	7:30-7:50	ペルーにおける体育の状況	Prof. Hernando DÍAZ ANDÍA (サンマルコス国立大学 体育学科長)
17:50-18:20	7:50-8:20	教師と教師教育者としての「授業研究」の営みから得たもの	富岡宏健 (広島大学附属三原中学校) 岩田昌太郎 (広島大学)
18:20-18:30	8:20-8:30	質疑応答	
18:30-18:40	8:30-8:40	休憩	
【第2部：研究発表】			
18:40-19:00	8:40-9:00	幼児期の家庭における運動習慣は運動能力の発達にどのように影響するか	加納裕久 (中京大学)
19:00-19:10	9:00-9:10	ゴールボールを用いたパラリンピック教育の授業実践報告： ーペルーのアレキパとクスコにおける実践ー	藤島廉 (広島大学大学院)
19:10-19:20	9:10-9:20	ゴールボール体験を用いたパラリンピック教育が日本の高校生の身体障害者に対するイメージに及ぼす効果	松本佑介 (広島大学大学院) 齊藤一彦 (広島大学)
19:20-19:30	9:20-9:30	質疑応答	
19:30-19:40	9:30-9:40	閉会の挨拶	齊藤一彦(広島大学)

第2回国際体育・授業研究学会では、レッスン・スタディや体育科教育に関するシンポジウムをペルーの体育科教育関係者及び日本の専門家を招いて開催し、その後、体育科教育に関する研究発表を行った。

シンポジウムでは、まず、アレキパ州における体育授業研究について、アレキパ州教育省体育局体育教育専門官の Miranda 氏とアレキパ州小学校体育教師 Parqui 氏によって報告がなされた。次に、サンマルコス国立大学体育学科長 Díaz 氏より、ペルーにおける体育教員養成の歴史的変遷や現状について発表がなされた。続いて、広島大学附属三原中学校の富岡氏と研究分担者である広島大学の岩田氏によって、体育授業を事例に授業実践者である教師と指導助言者である教師教育者という2つの立場と役割から得られた示唆の共有がなされた。その後、Miranda 氏、Parqui 氏、Díaz 氏、富岡氏、岩田氏の発表に対して、質疑応答が行われた。

研究発表では、まず、中京大学の加納氏より、3歳児以前・以後の運動習慣の調査からその後の運動習慣や運動能力に与える影響に関する報告がなされた。次に、広島大学大学院生の藤島氏より、2019年にペルーのアレキパとクスコで行われた体育授業研究のゴールボールを事例として、障害に対する理解への示唆に関する共有がなされた。続いて、広島大学大学院生の松本氏より、ゴールボールを用いたパラリンピック教育が日本の高校生の身体障害者に対するイメージに及ぼす効果についての報告がなされた。その後、加納氏、藤島氏、松本氏の研究発表に対して、質疑応答が行われた。なお、第2回国際体育・授業研究学会の様子は写真1の通りである。

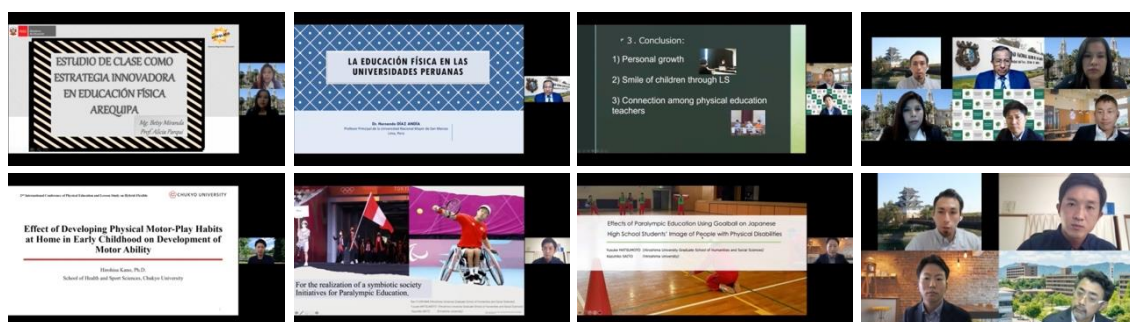


写真1 第2回国際体育・授業研究学会の様子

第2回国際体育・授業研究学会では、ペルーと日本からオンラインを通じて約60名の参加者がみられた。第2回大会の様子はアーカイブとして、国際体育・授業研究学会の動画共有サイトに公開されている (<https://youtu.be/8mQaN-yrEAo>)。

第2回大会後、参加者にインタビューを実施し、主に3点の成果や今後の国際体育・授業研究学会大会のあり方への示唆を得ることができた。

- ①学会大会の成果として、SFT事業やEDU-Port事業の数年間の取り組みのまとめとしての学会となったこと。
- ②学会大会のシンポジウムや質疑応答を通して、ペルーにおける体育授業研究の推進に際し、今後の課題がより明確になったこと。
- ③今後の学会大会のあり方として、ペルーと日本で授業研究や体育科教育の共同的な実践や研究を継続していくこと。

第2回大会はCOVID-19の感染拡大により、オンラインを中心として開催されたが、今後もペルーと日本の協働で学会大会が継続的に開催することが検討されている。

(齊藤一彦\*・岩田昌太郎\*・松本佑介\*・藤島 廉\*)

## 2. ペルーの体育科教育関係者へのインタビュー

レッスン・スタディを、ペルーの体育科教育関係者に紹介したことによる効果とその影響について明らかにするため、ペルーの体育科教育関係者を対象としたインタビュー調査（オンライン）を実施した。インタビュー調査は2021年11月1日（月）～11月29日（月）の期間で実施し、インタビュー調査対象者は、表2の通りである。

インタビュー調査は、オンラインツール（Zoom）を活用して行われ、インタビューの前に共同研究プロジェクトの目的や報告書公表時の留意事項、並びに、インタビ

ユー内容を録画することについて、これら全てに同意を得て実施した。

レッスン・スタディを、ペルーの体育科教育関係者に紹介したことによる効果とその影響について、Díaz 氏、Solis 氏、Miranda 氏、Damian 氏は以下のように述べている。

表2 インタビュー調査対象者

No.	対象者	所属	部署・役職
1	Díaz 氏	大学	教授
2	Solis 氏	教育省関係	スペシャリスト（体育）
3	Miranda 氏	教育省関係	スペシャリスト（体育）
4	Damian 氏	大学	教授

この2か月間、9月、10月で私は、4つのセミナーに参加しました。授業研究を推進するためにペルーの4か所でセミナーが開催されました。（中略）この4回とも、私はテーマとして授業研究を紹介しました。また、過去 SFT で開催したイベントの元参加者も参加していたので、より具体的な質問ができました。（Díaz 氏）

我々は教育省とともに全体の年明けに授業研究の研修を計画しています。（中略）まず、1回目のワークショップは7つの地域教育部（La Unidad de Gestión Educativa Local：以下「UGEL」と略す）と一緒にやります。去年話したことなのですが、UGEL 7だけではなくて、7つの UGEL に展開するために2月にこの講習会をやろうと計画しています。（Solis 氏）

1回、600人ぐらいのオンラインでのセミナーを、Díaz 氏と一緒に授業研究のことをやりました。（Miranda 氏）

来年、また一部対面に戻ったら、その Aquatic Activity というコースで授業研究を実践しようかなと思っています。（Damian 氏）

レッスン・スタディを、ペルーの体育科教育関係者に紹介したことによる効果とその影響については、4名のインタビュー調査から主に以下の4点に整理することができる。

- ①学会や研修会において、継続的に体育授業研究の普及や紹介がなされていること。
- ②ペルーの新たな地域において、体育授業研究の講習会の計画がなされていること。
- ③大学の実技系科目において、授業研究に関する講義の時間を新たに設ける検討がなされていること。
- ④体育授業研究の研究へ着手することが検討されていること。

SFT 事業や EDU-Port 事業後、COVID-19 の感染拡大によりオンラインが中心となっているものの、ペルーの体育科教育関係者によって、レッスン・スタディに関する取り組みが継続的に行われ、今後の展望についても把握することができた。

今後は、ペルーの体育科教育関係者によって作成された「体育教師養成・研修のための授業研究ガイドライン」の成果と課題について、学校現場や教員研修の現

場における活用の実態から明らかにする必要がある。

(齊藤一彦・久我アレキサンデル\*・山平芳美\*・白石智也\*)

### Ⅲ 成果と課題

COVID-19 の感染拡大の影響もありオンラインでの開催となったが、ペルーと日本の協働で第2回国際体育・授業研究学会を開催することができた。学会当日のペルー及び日本からの参加、また、アーカイブとして残されている第2回国際体育・授業研究学会当日の様子も継続的な視聴がなされている。SFT 事業や EDU-Port 事業のようなプロジェクトでは、一旦プロジェクト期間が終了するとその後の継続的な取り組みが難しいことが課題の一つとされる。一方で「ペルー型レッスン・スタディ」に関しては、COVID-19 の感染拡大の影響を受けながらも、ペルーの体育科教育関係者らの尽力によってオンラインを活用した取り組みや、対面授業に戻った際の授業研究に関する研修の準備がなされていた。

今後、ペルーの体育科教育関係者によって作成された「体育教師養成・研修のための授業研究ガイドライン」の成果と課題について早急に明らかにする必要があるものの、ペルーの教育省、大学、学校現場が連携して新たな地域への普及や研修が計画されており、「ペルー型レッスン・スタディ」への期待が高まっている。さらに、ペルーと日本の体育授業研究や体育科教育の共同研究も検討されており、「ペルー型レッスン・スタディ」は新たな局面に差しかかっているといえよう。

(齊藤一彦\*・木原成一郎\*・草原和博\*・岩田昌太郎\*・吉田成章\*・船橋篤彦\*)

### 引用文献

CIEFEC 国際体育・授業研究学会. II Conferencia Internacional de Educación Física y Estudio de Clase 第2回国際体育・授業研究学会：

<https://youtu.be/8mQaN-yrEAo> (参照日 2022 年 1 月 14 日)

日本型教育の海外展開 (EDU-Port ニッポン) ホームページ. 事業概要・実施方針：

<https://www.eduport.mext.go.jp/about/summary/#gaiyo> (参照日 2022 年 1 月 13 日)

齊藤一彦・草原和博・岩田昌太郎・桑山尚司 (2020) 日本型教育の海外展開方策モデル創出：広島型教科横断的国際協力プラットフォームの構築. 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 18：29-37.

Sport for Tomorrow ホームページ. SPORT FOR TOMORROW とは？：

<https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/about/> (参照日 2022 年 1 月 13 日)